

令和 7 年度

学級要覧



西東京市立青嵐中学校
I J 学級（特別支援学級）

〒202-0003 西東京市北町 2-13-17

TEL 042(422)3615（代表）

042(425)2771（I J 学級直通）

FAX 042(423)6220

1. 学級編成及び生徒数

(1) 学級編成

知的障害学級 I 学級 自閉症・情緒障害学級 J 学級

(2) 生徒数 (令和 7 年 4 月 1 日現在)

知的障害学級(I 学級)

	男	女	計
1 年	4	1	5
2 年	5	1	6
3 年	8	3	11
計	17	5	22

(人)

自閉症・情緒障害学級(J 学級)

	男	女	計
1 年	3	1	4
2 年	3	0	3
3 年	0	0	0
計	6	1	7

(人)

2. 教育課程に基づく学級の概要

○学校のエ育目標

社会人としての資質を養い、心身の調和のとれた人間に育てる。

- 1 豊かな創造性を育てる。 創造（豊かな発想をもち、創意工夫する）
- 2 人を尊重し、物を大切にすることを養う。 . . . 貢献（広い視野に立って考え、社会に貢献する）
- 3 目的に向かって努力する意志を培う。 . . . 挑戦（自律的に学習し、生活する）

○Ⅰ学級（知的障害学級）

◇ 特別支援学級の教育目標

一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばし、将来の自立した社会生活につながる生きる力を育てる。

- ア 健康でしなやかな体を育てる。
- イ 基本的な生活習慣を確立し、自律した生活をおくる力を育てる。
- ウ 基礎学力を身に付け、自分で考えて行動する力を伸ばす。
- エ 多様な学習、経験により豊かな心を育てる。
- オ 自尊感情を高め、将来の生き方を見通した進路選択につなげる。
- カ 人間関係、集団参加、社会参加への広がりをつままえ、社会性にかかわる力を伸ばす。

◇ 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

- ア 自立した社会生活を営むために、日常の生活に必要な基礎的知識や技能の習得に重点を置く。
- イ 小集団及び個別の指導で基礎的、基本的な学力の向上を図るとともに体験的な学習や問題解決学習を取り入れ、学ぶ楽しさを味わわせる。
- ウ 個別の教育支援計画を活用し、就学措置以前の教育機関及び共同学習の相手機関との連携を深めるとともに、保護者との共通理解、卒業後の教育機関との連携を確実なものにする。
- エ 個別指導計画を作成、運用していく中で、生徒一人一人の実態把握、指導の方針策定、指導内容の計画、指導状況の確認、指導効果の評価、引継ぎなどを行っていく。指導者集団での協議、管理職の把握、保護者との共通理解などのために活用していく。
- オ 基本的な生活習慣を確立し、将来のライフスキルを高めるために、日常生活の指導や自律的な集団活動、体験的な学習を重要な指導項目に位置付け、領域、教科等を合わせた指導を活用する。
- カ 学校行事や生徒会活動をととして通常の学級と積極的に交流教育を進め、活動の幅を広げて自己と他者の関わりを基本を知るとともに日常的な交流の機会・場面作りも工夫する。合わせて、通常の学級教員との協力で障害者理解、人権教育を進めていく。また、市内の特別支援学校と、より多くの交流の場面を作り、豊かな社会性を育む基礎とする。
- キ 将来の社会自立にあたっての福祉制度の活用の見通し、進路先での適応に関する見通しなど幅広い視点から検討し、一人一人の実態に応じた進路選択を継続して追求する。
- ク 保護者との連携を深め、生徒の生活全般をとらえた指導が展開できるように努める。また、保護者会などを通して、保護者同士が、支え合い、高め合えるよう関係をもち、集団としてまとまっていけるように働きかけ、支えていく。
- ケ 学級としての実践研究、教員の研修について、工夫して機会を作り出していく。また、個別の生徒指導の基本線や学級運営について、定期的に指導、助言を受ける。

- コ 教職員のサービスの厳正を継続し、「西東京あったか先生」を目指して研修を重ね、教員の人権意識の向上を図る。
- サ 主権者として社会で自立し生き抜く力や、社会の一員として自分に求められている役割を自覚し、社会の発展に貢献する態度を日常的に育てる。
- シ 60周年記念式典に向けた取組を行う。

◇ 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

ア 各教科

- ・ 一人一人の能力や特性などを把握したうえで、基礎的・基本的な学力を向上させるために、主体的・対話的で深い学びを実践する授業を展開する。
- ・ 基礎的な知識や技能を作業や実験などを通して実際に体験したり、具体的な事象を用いたり、体験活動や自然活動を通して、想像力豊かに楽しみながら学ばせる。
- ・ 友達と豊かにかかわり合い、学び合う中で、一人一人のもっている力を十分に発揮させ、分かる喜び、学ぶ喜びを味わわせる。
- ・ 実生活に即した知識や技能の習得ができるような課題設定を行い、体験を通して将来の自立した生活に向けての力を養う。
- ・ 文化、科学、芸術にふれたり体験したりする中で、興味関心を広げ深めるということや、好きなこと、得意なことを伸ばしていくようにする。
- ・ 生徒による授業評価や各意識調査結果の分析を詳細に行い、指導と評価が一体となるよう授業改善に努めるとともに、「教えて考えさせる授業（OKJ）」の継続的な取組を図る。

イ 道徳科

- ・ すべての教育活動を通して、心の教育の充実を図り、他者を思いやる心や、より良い人間関係の構築等、生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。
- ・ 社会生活を営む上での基本的なルール、マナーや円滑に生活を送るための社会的技能などを具体的な事例を通し、教え合い、認め合い、お互いを高め合う授業を展開する。

ウ 各教科等を合せた指導

- ・ 一人一人の障害特性、実態を把握し、各学習場面において、自立活動の視点での指導上の配慮を行う。それらを、個別指導計画に明記し、計画、評価を行って指導の積み上げを図る。
- ・ 係活動や委員会活動において、話し合いや活動報告の場面を多く設定することで、言語能力の向上を図り、豊かな自己表現力を身に付けさせ、他者との関わりが円滑になるように指導する。
- ・ 社会的な自立を目指し、着替えや荷物の整理整頓等日常生活の適切な行動様式を学び、生活技能の向上を図る。
- ・ ICTを活用し、機器の使用に慣れるとともに情報活用能力を高め、生徒一人一人の特性に合った指導を行い、個別最適な学びの充実を図る。また、自己表現の発表の場を工夫し、自分なりの表現に喜びや自信をもてるようにする。

エ 総合的な学習の時間

- ・ 地域への愛着、地域社会に参加・参画する態度を育む教育を推進することを、「総合的な学習の時間（西東京ふるさと探究学習）」の取組の柱とする。

オ 特別活動

- ・ 学校行事や学年行事に積極的に参加させ、共に学ぶ機会を増やすことによって特別支援学級、通常の学級との交流を図り、他者を認めながら活動できる態度や社会参加の力を養う。
- ・ 移動教室、校外学習、修学旅行等の学級・学校行事を通じた体験的学習により、情報を集める力、考えてまとめる力、表現・発表する力を養う。
- ・ 小集団活動や委員会・係活動での具体的な行動場面や作業を通して自主性や協調性を育てるとともに自己の役割と責任を自覚させる。

カ 自立活動

- ・ 一人一人の障害特性、実態を把握し、各学習場面において、自立活動の視点での指導上の配慮を行う。それらを、個別指導計画に明記し、計画、評価を行って指導の積み上げを図る。
- ・ 係活動や委員会活動において、話し合いや活動報告の場面を多く設定することで、言語能力の向上を図り、豊かな自己表現力を身に付けさせ、他者との関わりが円滑になるように指導する。
- ・ 社会的な自立を目指し、着替えや荷物の整理整頓等日常生活の適切な行動様式を学び、生活技能の向上を図る。

◇ 生活指導の重点

- ・ 友達との関わりや日常的な生活全般を通して具体例をあげながら生活規律や態度を指導する。また、個々の生徒の発達段階に応じて異性への思いやりの態度や望ましい人間関係の指導を行い、思春期の心と体の発達を促す。
- ・ 夏期休業明けに、生徒が円滑に学校生活を開始できるようスタートアップ期間を設け、生徒との全員面談を行う。
- ・ 児童虐待の事案に関しては早急に子ども家庭支援センターや関係諸機関に連絡し、連携を図りその対応にあたる。
- ・ いじめに関しては、西東京市「いじめ防止強化月間」にアンケートを実施し、早期発見と解決にあたる。
- ・ 保護者との連携を密にし、個別の教育支援計画及び個別指導計画を十分に活用して基本的生活習慣を身に付けさせ、自立への援助を行う。
- ・ 避難訓練や引き取り訓練等を通して、防災や安全に関する実践的な知識をもたせ、災害時に自らの身の安全を確保できるようにする。
- ・ 不登校生徒の未然防止、対応に向け、ICTを活用したデジタル教材等で、組織的な支援を充実させる。

◇ 進路指導の重点

- ・ 自分の生き立ちや将来の夢を話し合ったり、具体的な社会生活や職業の学習を進めたりする中で、自己理解を促し、自己決定力の伸長を図る。
- ・ 個人面談等を通じて保護者に働きかけ、将来にわたる生活自律の課題についての理解を深め、個々に応じた適切な進路指導を行う。
- ・ 上級学校の見学や職業調べ等のキャリア教育を通して卒業後の進路について見通しと自覚をもたせ、上級学校進学後の職場実習や働くことへの関心、意欲を高めるようにする。

- ・ 学んだことの振り返りや将来の生き方を考える活動を行う際、キャリア・パスポートを活用し、小学校から継続した9年間のキャリア教育の充実を図る。
- ・ キャリア教育の視点に立ち、職業調べ、職業講話で地域人材の積極的活用を図りながら、指導計画に基づいた進路指導を全校体制で取り組む。

◇ 教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- ・ 朝学活と帰りの学活で、一日の予定を把握、確認したり、自分の体調等の状況を確認したり、その日の行動を振り返ったりする活動を行わせる中で、基本的生活習慣を確立し、自律した生活をおくる力を育てる。
- ・ 学校図書館を活用した読書活動を週1時間取り入れ、落ち着いて本を読むことに慣れ親しみ、自分で考える習慣を身に付けさせる。学校図書館専門員と連携を取りながら家庭においても本を読む楽しさを味わわせる。
- ・ 放課後および長期休業中の教育指導を定期的・計画的に実施し、学習習慣の確立と健康と体力づくりの指導を充実させる。
- ・ 市内の合同作品展等、地域社会の諸行事に参加することで豊かな社会性を育てる。
- ・ 生涯にわたり健康な生活を実践できるように、食育や薬物乱用防止など身体の健康に関する指導や取組を充実する。
- ・ 社会貢献の姿勢を体験的に学ばせ、地域への愛着、社会に参加・参画する態度を育む。
- ・ 各教科、総合的な学習の時間、学活等、日常的にSDGsを推進し、ESDを重点項目として持続可能な社会の担い手を育てる。
- ・ コミュニティ・スクールへの円滑な移行と充実を図るために、学校運営連絡協議会を栄小学校と合同実施し、小中学校と地域住民で「めざす子ども像」を共有する。
- ・ 健康教育の一環の視点や体力テストの結果などから体力面での自己の課題を明確にさせ、コーディネーショントレーニング等を活用しながら体力向上に主体的、意欲的に取り組む態度を養う。
- ・ 1単位時間は50分を原則とするが、生徒の実態に合わせて弾力的に運用する。
- ・ 個々の生徒の障害や特性が多岐にわたるため、習熟度別や課題別のグループ編成をし、スモールステップの学習で達成感をもたせ、学習意欲の向上を図る。
- ・ 人間関係、集団参加、社会性に関わる力を伸ばすために、通常の学級、並びに、併置されている自閉症・情緒障害支援学級との交流及び共同学習を行う。
- ・ 多様な授業形態を生かした指導を工夫し、ティーム・ティーチングについては指導者間の役割を明確にする。
- ・ インクルーシブ教育の取組として、特別支援学級の紹介、「劇と音楽の会」の校内劇発表会、委員会活動、校内部活動への参加等で、通常学級との交流活動の充実を図る。
- ・ 自発的・自主的に行動でき、周囲と協調できる生徒には校内の部活動への参加を認め、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会を与えていく。その際、担任と部活動顧問とが密に連絡を取り合い、担任が生徒の活動状況を把握できるように配慮する。

○ J 学級（自閉症・情緒障害学級）

◇ 特別支援学級の教育目標

- 一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばし、将来の自立した社会生活につながる生きる力を育てる。
- ア 人間関係や集団参加の基本的な力をつける中で自分の課題をとらえさせる。
- イ 状況に応じた自己コントロールの力を伸ばし、自律した生活を送る力を付ける。
- ウ 個に応じて学力を伸ばし、理解力、表現力を高める。
- エ しなやかで強い心と体を育てる。
- オ 多様な学習、経験により興味関心を広げ、適応力を高める。
- カ 自己理解に裏打ちされた自尊感情を高め、進路選択につなげる。

◇ 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

- ア 生徒の実態に応じた学習課題を達成するために、個別や多様な集団など適切な学習形態の確立に努める。
- イ 主体的・対話的な深い学びの実現のために、知的障害学級、通常の学級、他校の特別支援学級などとの交流及び共同学習を推進する。
- ウ 個別の教育支援計画を活用し、就学措置以前の教育機関及び共同学習の相手機関との連携を深めるとともに、保護者との共通理解、卒業後の教育機関との連携を確実なものにする。
- エ 個別指導計画を作成、運用していく中で、生徒一人一人の実態把握、指導の方針策定、指導内容の計画、指導状況の確認、指導効果の評価、引継ぎなどを行っていく。指導者集団での協議、管理職の掌握、保護者との共通理解などのために活用していく。
- オ 自閉症・情緒障害学級の特有の役割を果たしていくために、自立活動の指導に重点を置き、集団活動、作業学習、自己の振り返りなどを通して、状況に応じた行動、自己コントロール、コミュニケーションと集団参加の基本などの力を伸ばしていく。
- カ 将来の社会自立にあたっての福祉制度の活用の見通し、進路先での適応に関する見通しなど幅広い視点から検討し、一人一人の実態に応じた進路選択を追求する。
- キ 教科等での共同学習、学校行事、学年行事、生徒会活動、日常の生活指導場面などでの交流学习を積極的に行い、自己と他者の関わりを学ばせる。合わせて、通常の学級教員との協力で、障害者理解、人権教育を進めていく。
- ク 市内の特別支援学級と、より多くの交流場面を作り、経験の幅を広げるとともに、豊かな社会性を育てる。
- ケ 保護者との連携を深め、生徒の生活全般をとらえた指導が展開できるように努める。また、保護者会などを通して、保護者同士が、支え合い、高め合えるよう関係を持ち、集団としてまとまっていけるように働きかけ、支えていく。
- コ 学級としての実践研究、教員の研修について、工夫して機会を作り出していく。また、個別の生徒指導の基本線や学級運営について、定期的に指導、助言を受ける。
- サ 教職員のサービスの厳正を継続し、「西東京あったか先生」を目指して研修を重ね、教員の人権意識の向上を図る。
- シ 主権者としての権利の享受や責任・義務の履行、公的な事柄への興味や関心を高め、社会参画に必要な知識・技能、態度を育てる。
- ス 60周年記念式典に向けた取組を行う。

◇ 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

ア 各教科

- ・ 一人一人の到達度、認知特性などを把握したうえで、基礎的・基本的な学力を向上させるために、主体的・対話的で深い学びを実践する授業を展開する。
- ・ 基礎学力に関する学習は毎日取り組むようにし、家庭学習の習慣付けとも合わせ、定着度の向上を図る。
- ・ 基礎的な知識や技能を作業や実験などを通して実際に体験したり、具体的な事象を用いたりして、イメージ豊かに楽しみながら学ばせ、分かる喜び、学ぶ喜びを味わわせる。
- ・ 文化、科学、芸術にふれたり体験したりする中で、興味関心を広げ深め、好きなこと、得意なことを伸ばしていくようにする。
- ・ 習熟度に応じて、教科によっては通常の学級の教科の授業に参加させるなど、個に応じた学習指導を行う。
- ・ 生徒による授業評価や各意識調査結果の分析を詳細に行い、指導と評価が一体となるよう授業改善に努めるとともに、「教えて考えさせる授業（OKJ）」の継続的な取組を図る。

イ 道徳科

- ・ すべての教育活動を通して、心の教育の充実を図り、他者を思いやる心や、より良い人間関係の構築等、生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。
- ・ 社会生活を営む上での基本的なルール、マナーや円滑に生活を送るための社会的技能などを具体的な事例を通し、教え合い、認め合い、お互いを高め合う授業を展開する。

ウ 総合的な学習の時間

- ・ 地域への愛着、地域社会に参加・参画する態度を育む教育を推進することを、「総合的な学習の時間（西東京ふるさと探究学習）」の取組の柱とする。
- ・ 年間指導計画に基づき、情報セキュリティポリシーに関する基礎的・基本的な知識やSNSを正しく安全に利用できる力を向上させる。
- ・ ICTを活用し、機器の使用に慣れるとともに情報活用能力を高め、生徒一人一人の特性に合った指導を行い、個別最適な学びの充実を図る。また、自己表現の発表の場を工夫し、自分なりの表現に喜びや自信をもてるようにする。

エ 特別活動

- ・ 学校行事や学年行事に積極的に参加させ、共に学ぶ機会を増やすことによって通常の学級との交流を図り、他者を認めながら活動できる態度や社会参加の力を養う。
- ・ 移動教室、校外学習、修学旅行等の学級、学校行事を通じた体験探究的学習により、情報を集める力、考えてまとめる力、表現・発表する力を養う。
- ・ 小集団活動や委員会・係活動での具体的な行動場面や作業を通して自主性や協調性を育てるとともに自己の役割と責任を自覚させる。

オ 自立活動

- ・ あらゆる指導場面で、一人一人の障害特性に対する配慮を行い、3つの自立活動の時間を設ける。
 - ①個別面談やグループでの会話を楽しみながら、自分の意思や感情、悩みなどを表出することでコミュニケーションの基礎的な能力を高める。また、自分や相手の考え方の違いから自他の理解を深め、社会生活や集団参加の技術を習得する。
 - ②各行事について個々の目標を設定し、クラスの一員として協力すること、話し合うこと、頑張って達成する経験を重ね、周囲から認められることで自己肯定感の向上を図る。
 - ③音楽や映像・照明、情報機器、造形、ダンス、発声、表現等を身体運動、表現を中心的な内容とする演劇活動を行い、状況をとらえての行動、場面に応じた指示理解、対人関係、集団参加などの面での個別の課題に取り組んでいく。合わせて、達成感や、他者との共感関係などを味わわせ、情緒の安定を図る。
- ・ 朝学活と帰りの学活で、一日の予定を把握、確認したり、自分の体調等の状況を確認したり、その日の行動を振り返ったりする活動を行わせる中で、自己理解を深め、自律性を高める。
- ・ 係活動や委員会活動において、話し合いや活動報告の場面を多く設定することで、言語能力の向上を図り、豊かな自己表現力を身に付けさせ、他者との関わりが円滑になるように指導する。
- ・ 社会的な自立を目指し、着替えや荷物の整理整頓等日常生活の適切な行動様式を学び、生活技能の向上を図る。

◇ 生活指導の重点

- ・ 学校生活全般を通して具体例をあげながら生活規律や態度を指導する。また、個々の生徒の発達段階に応じて異性への思いやりの態度や望ましい人間関係の指導を行い、思春期の心と体の発達を促す。
- ・ 夏期休業明けに、生徒が円滑に学校生活を開始できるようスタートアップ期間を設け、生徒との全員面談を行う。
- ・ 児童虐待の事案に関しては、学校組織の虐待防止委員会にて協議し、早急に子ども家庭支援センターや関係諸機関に連絡し、連携を図ったうえでその対応にあたる。
- ・ いじめに関しては、「西東京市いじめ防止強化月間」にアンケートを実施し、早期発見と解決にあたる。
- ・ 避難訓練や引き取り訓練等を通して、防災や安全に関する実践的な知識をもたせ、災害時に自らの身の安全を確保できるようにする。
- ・ 不登校生徒の未然防止、対応に向け、ICTを活用したデジタル教材等で、組織的な支援を充実させる。

◇ 進路指導の重点

- ・ 自分の生き立ちや将来の夢を話し合ったり、具体的な社会生活や職業の学習を進めたりする中で、自己理解を促し、自己決定力の伸長を図る。
- ・ 個人面談等を通じて保護者に働きかけ、将来に向け調和的発達につながるよう、個々に応じた適切な進路指導を行う。
- ・ 上級学校の見学や職業調べ等のキャリア教育を通して卒業後の進路について見通しと自覚をもたせ、働くことへの関心、意欲を高めるようにする。

- ・ 学んだことの振り返りや将来の生き方を考える活動を行う際、キャリア・パスポートを活用し、小学校から継続した9年間のキャリア教育の充実を図る。
- ・ キャリア教育の視点に立ち、職業調べ、職業講話で地域人材の積極的活用を図りながら、指導計画に基づいた進路指導を全校体制で取り組む。

◇ 教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- ・ 自閉症の障害特性に応じた、生活、行動、学習面での必要な配慮と支援を指導者間で共通認識し、家庭・地域とも連携を図る。
- ・ 自立活動等で学校図書館を活用した読書活動を計画的に取り入れ、落ち着いて本を読むことに慣れ親しみ、自分で考える習慣を身に付けさせる。学校図書館専門員と連携を取りながら、家庭においても本を読む楽しさを味わわせる。
- ・ 放課後および長期休業中の教育指導を定期的・計画的に実施し、学習習慣の確立と健康と体力づくりの指導を充実させる。
- ・ 市内の合同作品展等、地域社会の諸行事に参加することで豊かな社会性を育てる。
- ・ 生涯にわたり健康な生活を実践できるように、食育や薬物乱用防止など身体の健康に関する指導や取組を充実する。
- ・ 社会貢献の姿勢を体験的に学ばせ、地域への愛着、社会に参加・参画する態度を育む。
- ・ 各教科、総合的な学習の時間、学活等、日常的にSDGsを推進し、ESDを重点項目として持続可能な社会の担い手を育てる。
- ・ コミュニティ・スクールへの円滑な移行と充実を図るために、学校運営連絡協議会を栄小学校と合同実施し、小中学校と地域住民で「めざす子ども像」を共有する。
- ・ 健康教育の一環の視点や体力テストの結果などから、体力面での自己の課題を明確にさせ、コーディネーショントレーニング等を活用しながら体力向上に主体的、意欲的に取り組む態度を養う。
- ・ 1単位時間は50分を原則とするが、生徒の実態に合わせて弾力的に運用する。
- ・ 個々の生徒の障害や特性が多岐にわたるため、学習指導の際に、併置されている知的障害固定学級との共同学習や課題別の学習グループを編成する。
- ・ 人間関係、集団参加、社会性に関わる力を伸ばすために、通常の学級、並びに、併置されている知的障害固定学級との交流及び共同学習を行う。
- ・ 授業の形態及び指導方法の工夫・改善に努め、個々の能力や障害の状態に応じた指導を行う。チーム・ティーチングについては指導者間の役割を明確にする。
- ・ インクルーシブ教育の取組として、特別支援学級の紹介、「劇と音楽の会」の校内劇発表会、委員会活動等で、通常学級との交流活動の充実を図る。
- ・ 自発的・自主的に行動でき、周囲と協調できる生徒には校内の部活動への参加を認め、自らの適性や興味・関心等をより深く追求していく機会を与えていく。その際、担任と部活動顧問とが密に連絡を取り合い、担任が生徒の活動状況を把握できるように配慮する。

3. 青嵐中学校 I J 学級の沿革

平成 26 年度	4 月 1 日	青嵐中学校校内に特別支援学級（I J 学級）開設
	4 月 7 日	始業式（J 学級 3 年生 1 名）
	4 月 8 日	入学式（I 学級 1 年生 5 名）
		特別支援学級 開級式
	3 月 20 日	卒業式（J 学級 1 名）
平成 27 年度	4 月 8 日	入学式（I 学級 5 名、J 学級 4 名）
平成 28 年度	4 月 7 日	入学式（I 学級 6 名、J 学級 4 名）
	3 月 20 日	卒業式（I 学級 7 名、J 学級 3 名）
平成 29 年度	4 月 7 日	入学式（I 学級 7 名）
	3 月 20 日	卒業式（I 学級 6 名、J 学級 5 名）
平成 30 年度	4 月 9 日	入学式（I 学級 10 名）
	3 月 20 日	卒業式（I 学級 6 名、J 学級 4 名）
平成 31 年度	4 月 9 日	入学式（I 学級 5 名、J 学級 3 名）
令和 元年度	3 月 20 日	卒業式（I 学級 9 名、J 学級 2 名）
令和 2 年度	6 月 7 日	入学式（I 学級 8 名、J 学級 1 名）
	3 月 19 日	卒業式（I 学級 12 名、J 学級 3 名）
令和 3 年度	4 月 6 日	入学式（I 学級 8 名、J 学級 3 名）
	3 月 18 日	卒業式（I 学級 8 名、J 学級 4 名）
令和 4 年度	4 月 6 日	入学式（I 学級 4 名、J 学級 1 名）
	3 月 17 日	卒業式（I 学級 9 名）
令和 5 年度	4 月 7 日	入学式（I 学級 10 名、J 学級 1 名）
	3 月 19 日	卒業式（I 学級 8 名、J 学級 3 名）
令和 6 年度	4 月 9 日	入学式（I 学級 5 名、J 学級 3 名）
	4 月 23 日	遠足
	6 月 1 日	運動会
	6 月 21 日	バスケットボール大会
	10 月 12 日	合唱コンクール
	10 月 30 日	
	～ 11 月 1 日	移動教室（千葉方面）
	12 月 19 日	マラソン大会
	2 月 14 日	劇と音楽の会
	3 月 8 日	文化発表会
	3 月 19 日	卒業式（I 学級 5 名、J 学級 3 名）
令和 7 年度	4 月 8 日	入学式（I 学級 5 名、J 学級 4 名）

4. 年間行事予定

月 曜・ 行事 日	4		5		6		7		8		9	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	火		木		日		火		金		月	始業式 スタートアップ 期間(始)
2	水		金	遠足(IJ)	月		水		土		火	
3	木		土	憲法記念日	火		木		日		水	
4	金		日	みどりの日	水		金		月		木	
5	土	春季休業日(終)	月	こどもの日	木		土		火		金	スタートアップ 期間(終)
6	日		火	休日	金		日		水		土	
7	月	始業式	水		土	運動会	月	安全指導	木		日	
8	火	入学式	木		日		火		金		月	
9	水		金	生徒総会	月	振替休業日	水		土		火	
10	木		土	避難訓練	火		木	避難訓練	日		水	
11	金	定期健康診断(始)	日		水		金		月	山の日	木	
12	土	西東京平和の日	月		木		土		火	教育活動停止日(始)	金	避難訓練
13	日		火		金		日		水		土	
14	月		水		土		月		木		日	
15	火		木		日		火		金	教育活動停止日(終)	月	敬老の日
16	水		金		月	安全指導	水		土		火	学校公開週間(始) 生徒会選挙・立会演説会
17	木		土		火		木	美化活動	日		水	
18	金	避難訓練	日		水		金	終業式	月		木	
19	土		月	安全指導	木	避難訓練 多摩特研球技大会(IJ)	土		火		金	
20	日		火		金		日		水		土	学校公開週間(終) 道徳授業地区公開講座
21	月	安全指導	水		土	開校記念日	月	夏季休業日(始) 海の日	木		日	
22	火		木	第1回定期考査	日		火		金		月	
23	水		金		月		水		土		火	秋分の日
24	木		土		火		木		日		水	
25	金		日		水	第2回定期考査	金		月		木	第3回定期考査
26	土	学校公開日 セーフティ教室	月		木	第2回定期考査	土		火		金	
27	日		火		金		日		水		土	
28	月	振替休業日	水		土		月		木		日	
29	火	昭和の日	木		日		火		金	オンライン・ドリル	月	安全指導
30	水		金		月	定期健康診断(終)	水		土		火	
31			土				木		日	夏季休業日(終)		

曜・行事 日	10		11		12		1		2		3	
	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	水	都民の日 修学旅行(3)(始)	土		月		木	元日	日		日	
2	木		日		火		金		月		月	
3	金	修学旅行(3)(終)	月	文化の日	水		土		火		火	避難訓練
4	土		火		木		日		水		水	
5	日		水		金		月		木		木	
6	月		木		土		火		金	多摩特研劇と音楽の会(IJ) 新入生保護者説明会	金	
7	火		金		日		水	冬季休業日(終)	土		土	
8	水		土		月	安全指導	木	始業式	日		日	
9	木		日		火		金		月		月	
10	金		月		水		土		火		火	
11	土		火		木		日		水	建国記念の日	水	薬物乱用防止教室(3)
12	日		水		金		月	成人の日	木	避難訓練	木	
13	月	スポーツの日	木	第4回定期考査	土		火	避難訓練	金		金	卒業式予行
14	火		金	第4回定期考査	日		水		土		土	
15	水		土		月		木		日		日	
16	木		日		火	避難訓練	金		月	安全指導	月	安全指導
17	金	合唱コンクール	月	安全指導	水		土		火		火	奉仕活動(3)
18	土		火		木	多摩特研マラソン大会(IJ)	日		水		水	
19	日		水	避難訓練	金		月		木		木	卒業式
20	月		木		土		火		金		金	春分の日
21	火	避難訓練	金		日		水		土		土	
22	水		土		月		木		日		日	
23	木		日	勤労感謝の日	火		金		月	天皇誕生日	月	
24	金		月	休日	水	美化活動	土		火		火	美化活動
25	土		火		木	終業式	日		水	第5回定期考査	水	修了式
26	日		水		金	冬季休業日(始)	月	安全指導	木	第5回定期考査	木	春季休業日(始)
27	月	安全指導	木	校内実習(始)	土		火		金		金	
28	火		金	校内実習(終)	日		水		土		土	
29	水		土		月		木				日	
30	木	移動教室(IJ)(始)	日		火		金				月	
31	金	移動教室(IJ)(終)			水		土				火	

5. I J 学級の授業

・令和7年度 時間割

知的障害学級(I 学級)

	月	火	水	木	金
1	学級活動	体育	作業	英語	日常生活
2	道徳	音楽	生活単元	社会	総合
3	数学	数学	数学	数学	美術
4	国語	国語	国語	国語	美術
5	職業家庭	英語	体育	生活単元	音楽
6	職業家庭	理科		体育	体育

自閉症・情緒障害学級(J 学級)

	月	火	水	木	金
1	学級活動	体育	社会	社会	理科
2	道徳	音楽	自立活動	英語	総合
3	美術	国語	国語	国語	国語
4	美術	数学	数学	数学	数学
5	技術家庭	理科	体育	自立活動	音楽
6	技術家庭	英語		体育	体育

6. 時程表

生徒登校	8 : 2 0 ~ 8 : 3 0
予鈴	8 : 2 5
朝学活	8 : 3 0 ~ 8 : 3 8
1 校時	8 : 4 5 ~ 9 : 3 5
2 校時	9 : 4 5 ~ 1 0 : 3 5
3 校時	1 0 : 4 5 ~ 1 1 : 3 5
4 校時	1 1 : 4 5 ~ 1 2 : 3 5
昼食	1 2 : 3 5 ~ 1 3 : 0 5
昼休み	1 3 : 0 5 ~ 1 3 : 2 5
5 校時	1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 2 0
6 校時	1 4 : 3 0 ~ 1 5 : 2 0
帰り学活	1 5 : 2 5 ~ 1 5 : 3 0
	(5 時間授業 1 4 : 2 5 ~ 1 4 : 3 0)
清掃	1 5 : 3 0 ~ 1 5 : 4 5
	(5 時間授業 1 4 : 3 5 ~ 1 4 : 4 5)
生徒下校	1 5 : 5 0 (5 時間授業 1 4 : 5 0)

7. 校舎配置図

＜令和7年度 校舎配置図＞

